

ひらつか 民児協だより

第 36 号

2024 March

令和 6 年 3 月 31 日

発行：平塚市民生委員

児童委員協議会

— 支えあう 住みよい社会 地域から —



継続は力、繋がる交流

土沢・岡崎地区民児協の交流会及び合同研修会を開催しました。

私たちの先輩民生委員の発案により平成十五年に両民児協の親睦を目的として交流会が開始され、昨年十月十七日に二十一回目を土屋の七国荘で行いました。

研修会は女性防災クラブ平塚パワーズの皆さんにより「日常の防災対策について」の講義をしていただきました。日常の防災意識の持ち方だけにとどまらず、災害発生時での対応全般についての心得なども学ぶことが出来ました。

この数年コロナ禍のため地域活動等多くのイベントが中止される状況でしたが毎年途切れることがなく、交流会が続けられていることは両民児協の強い思いのたまものだと思っています。

普段難しい活動をしている委員の方々も、この日ばかりは仲間同士和気あいあいの中にもお互いの情報交換もして有意義なひと時を過ごしました。

土沢地区・岡崎地区

◇令和5年度◇各部会の活動

コロナ禍で活動できなかった各部会も少しずつ活動を再開しています。一斉改選を経て、新しいメンバーとなった各部会の活動状況を紹介します。

☆高齢者部会 部会長 山崎 正（城島）

第1回は活動予定を話し合ったほか、グループに分かれて意見交換を実施しました。どのグループも各地区の実情に沿った活動や困りごとについて活発に話し合われていました。

第2回では、「ひとり暮らし高齢者調査」について市高齢福祉課から、「災害時の民生委員児童委員の役割」について市災害対策課から説明を受けました。

☆心身障がい者部会 部会長 佐草 恭造（中原）

第1回は活動方針などを話し合ったほか、意見交換を行い、活発な意見が多数聞かれました。

第2回では平塚市障がい者団体連合会との情報交換会を開催し、8団体から貴重なお話を伺うことができました。障がいの特性を理解し、当事者に寄り添った支援ができるよう努めていきます。

☆児童部会 部会長 井上 勝博（金田）

第1回では、まずは3年間の活動方針や大まかな予定を話し合いました。その後、平塚市の子どもの現状（虐待及び相談内容等）を市こども家庭課から説明していただきました。最後に、児童委員の役割等について意見交換を行いました。

第2回では、市保育課から本市の子ども・子育て支援制度や支援体制について学びました。時代に沿った児童委員のあるべき姿を3年間じっくりと考え、話し合い、互いに成長していきたいと思えます。

☆主任児童委員連絡会 代表 長岡 津也子（横内）

第1回では主任児童委員同士での情報交換、第2回では市立保育園と市こども家庭課との意見交換を実施したほか、平塚児童相談所の業務内容や主任児童委員との連携について学びました。

第3回では県立子ども自立生活支援センター（きらり）と県立平塚支援学校を見学しました。今後も主任児童委員としての知見を高めていきたいと思えます。

◇湘南西ブロック研修会

11月15日に平塚市中央公民館で「地域共生社会の実現に向けて～民生委員児童委員に求められるもの」をテーマとして湘南西ブロック研修会を実施しました。全国手をつなぐ育成会連合会の又村あおい氏を講師にお迎えし、3市2町の民生委員児童委員370人が参加しました。

◇PR活動（広報部会）

5月12日の「民生委員・児童委員の日」に合わせ、パネル展と街頭PR活動を行いました。

☆パネル展を開催しました

5月8日～5月14日の間、ららぽーと湘南平塚のご協力をいただき、パネル展を実施しました。各地区民児協で用意した活動の様子の写真等を展示し、幅広い層にアピールできました。来年度以降も実施予定です。



☆街頭PR活動を実施しました

5月12日に、平塚駅前にて民生委員児童委員のリーフレットと啓発グッズ（エコバッグ）を配布しPR活動を行いました。足をとめて話を聞いてくれる方や、ねぎらいの言葉をかけてくださる方もいらっしゃいました。



お知らせ

令和6年度

ひとり暮らし高齢者調査

令和6年度調査が4月から始まります。今回の調査訪問においても、民生委員児童委員の皆様のご協力をお願いします。

◆スケジュールと調査の流れ

- 4月 地区会長会議にて調査票を配付
- 6月末 調査訪問を終了し、調査票を地区会長へ提出
- 7月以降 高齢福祉課で情報を整理し、よろず相談センターへ提供



◆前回調査からの主な変更点

- (1) 調査対象者
72歳以上（令和6年4月1日時点）
※従来は、70歳以上。
- (2) 調査訪問期間
約3か月間 ※従来は、約2か月間

ひらつか民児協だより 第36号

発行日：令和6年3月31日

発行人：小原公一（民児協会長）

編集人：中山裕史（広報部会長）・Cグループ

発行所：平塚市民生委員児童委員協議会

住所：平塚市浅間町9番1号

電話：0463-21-9848

金田地区

すごい作品がぞくぞく

金田地区では「温かい人間関係をつくろう」を合言葉に、『あいさつ・声かけ運動』を始めました。金田小学校や地域の方々にポスターと標語を募集したところ、小学生から大人まで五十余の作品が寄せられました。優秀作十二点の中から六点をここに紹介します。*作品は順次地域内に掲出しています。



金田小3年 江原希音



金田小6年 山田佳季

おはようと 言ったら たちまち仲直り

金田小3年 後藤碧生

ぼくのあいさつで みんなをえがおにしよう

金田小1年 たかはしなみと

あいさつは 自分のあしたをつなぐこと

金田小3年 おぎのうた

あいさつで つなごう みんなの心の手

金田小6年 川上来琉



城島地区

こんにちは 民生委員です

城島地区社協では、ひとり暮らし高齢者等への支援事業の見直しがなされました。

民生委員が行なう訪問・見守り活動で、訪問時の手土産をお配りする新たな事業として「こんにちは民生委員です」を十月からスタートしました。

お配りする品物は、ひらつか障がい者福祉ショップ「ありがとう」の協力をいただいています。

初回は十月十八日からショップ「ありがとう」のクッキーを手土産に訪問しました。

高齢者の方からは手土産を大変喜んでいただき、話題と、ふれあいが増えました。

民生委員からは、訪問活動が大変しやすくなったという報告がありました。

旭北地区

おしゃべりサロン

纏地区では高齢者の方々がいきいきと生活していくために「まとい集いの場」を開催し、健康体操とおしゃべりサロンを実施しています。

「おしゃべりサロン」は纏自治会館で毎月第一水曜日十時から二時間ほど活動しています。企画にあたり大事にしていることは、参加された方が活動を楽しみ交流を深めることです。

今年度は、折り紙やちぎり絵の作品作り、ポッチャやダーツ、ウクレレのミニコンサート、交通安全教室など月ごとに趣向を凝らしています。



また、合間にはコグニサイズなども行っています。

ポッチャでは元気な声でチームメイトを応援したり、ちぎり絵の作品を見せ合ったり、楽器に合せて話はずんだり、一緒に歌ったり。そんないきいきとした姿に私達委員は励まされ、おしゃべりサロンの大切さを感じます。

毎月の参加人数は二十人前後です。活動場所の広さなどの課題もありますが、サロンのことを周知し、少しでも多くの方に参加していただけることを願っています。



民生委員の聞き書き日記

これはケアマネージャーMさんが、市の相談窓口で体験した話です。

救いのまなざし

「Aさん、今日はどんなご相談ですか？」と相談員に問われ、Aさんは下を向いたまま口ごもった。付き添っていたMさんが頃を見計らって口添えた。「さうとひとことと言えないから困っているんですね。」その促しがAさんを押し込んだ。女房は要介護4。一人では食事歩行も何もできない。自分はその日その日の現場仕事で糊口を凌ぎ、女房の側にいてやることもできない。人様にお世話になるばかりで情けないです。――身につまされる話でしたとMさんは言う。

*

帰り際、二人を見送る相談員の眼差しが優しかった。頭を下げるAさんの心に一筋の光が宿ったようだMさんは思った。(民生委員Y)

金目地区

金目人集まれ

秦野街道に沿って金目川が流れ、それをまたぐように広がる金目地区では、平成十九年に年齢に関係なく井戸端会議や居場所としてのサロンが始まって十五年になります。

サロンに行けば、一人では出来ない事もできるし、民生委員にも会えて相談も出来て、包括や自治会にもつながり、地域の事がわかるし、友人もできます。

現在は五地域で月一回、二地域で二ヶ月に一回開いています。主催は地区社協で、民生委員も全員スタッフとして参加しています。

内容は、体操、ダンス、コグニサイズ、バイオリンとチェロ、フルート、バンドの演奏に、最近では、ハンドベルも人気です。また、東海大学の「落研」の落語や、金目の自然や歴史について研究活動をしている「金目エコミュージアム」の講座も、楽しいプログラムです。参加者の方達から「サロンは楽しいし、元気が出ます」という声がかかります。



旭南地区

あさひの絆まつり

福祉村の「絆まつり」が四年ぶりに開催できました。令和元年より新型コロナウイルス対策のため開催を見合わせてきましたが、地区内の自治会や福祉関係団体などの多くの方々にも協力をいただき、盛況となりました。

日時 令和五年十月二十一日(土) 十時～十三時
場所 旭南地区町内福祉村「あさひの絆」と周辺
内容 活動の紹介(主催者は「あさひの絆」運営協議会)
①活動内容の展示紹介 ②野菜の販売
③軽食の提供(おにぎり・豚汁・コーヒ―)
④小児のゲーム(景品付き) ⑤バザー
参加者 主催者発表で二百名:
二百五十名前後との印象(筆者の印象)

協力 旭南自治会連合会・旭南地区社協
旭南地区民児協

久々の行事で、あちこちから温かいお言葉を耳にすることができ「地域の絆」の重要性を実感しました。

